

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490500404		
法人名	栄寿会 合同会社		
事業所名	グループホーム ぽかぽか(ゆずユニット)		
所在地	大分県佐伯市弥生大字江良1451-1		
自己評価作成日	令和7年5月9日	評価結果市町村受理日	令和7年8月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	令和7年6月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本年度は地域との交流を深める事に重点を置き、回覧板で日々の暮らしや施設での取り組みの様子をお伝えし、SNSでも利用者様やイベントの様子を発信するなど、地域に根ざした施設作りに取り組んできました。同時に、利用者本位とチームワークをより強固なものにするために、職員別の研修や利用者様の個別リハビリなどの新たな取り組みを行い、「その人らしさ」や「どのように生活していきたいか」を職員と利用者様が一緒に考える、お一人おひとりに寄り添ったケアの実践をしてきました。また、外部研修に参加する機会も多く作り人材育成に力を入れ、職員のスキル向上や資格取得にも注力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・3食事業所内で職員により作られている。利用者も一緒に料理をしたり盛り付けなどをして楽しんでいる。
 ・協力医は24時間365日いつでも対応できる体制にあり、本人・家族・職員も安心である。
 ・出来る事は自分ですと言う理念のもと利用者は炊事掃除やこまごました家事をこれまで行って来たようにこなしている。利用者の明るい笑顔や楽しそうな声が聞こえてくる。
 ・利用者の主体性を重視しており、利用者本位の支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は各ユニット・休憩室に掲示しており、毎朝朝礼時に理念を読み、管理者・職員共に共有している。新任職員研修には必ず理念に基づいた研修を行い、職員別にも定期的に研修を行う事で実践につなげている。	利用者が自分の事は自分でできる様に応援している。理念に沿った支援ができる様に定期的に研修がなされている。地域とのつながりも大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の集会や清掃活動など利用者様と一緒に参加していただき、地域の方との交流を深めている。また、日常的に散歩を行うなど、地域とのつながりが途絶えないよう努めている。	地区の総会や清掃活動に参加している。施設の近くにある八坂神社の獅子舞を見に行くなど地域からの誘いがある。職員が地区の消防団に参加している。普段の散歩で会った近所の人と話をしたり、野菜をもらったり、地域とのつながりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、施設で行っている認知症ケアの事例や研修内容などお伝えし、地域の方々に認知症への理解を深めている。また、回覧版に事業所の便りを掲載し、日々の取り組みなども紹介している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、サービスの内容や取り組み等報告をしている。ご家族様や地域の意見をいただき職員全員で共有し、サービスの向上に努めている。	2か月に1度開催されている。毎回利用者や家族が参加されている。区長から施設の事が良くわからないという意見があり、施設の取り組みやイベントの報告を地区の回覧板で知らせるようになった。スライドで普段の様子を見せ、家族から喜ばれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所担当者様と積極的に話し合いをする機会を作っている。利用者様や制度の事など必要時にはアドバイスを受けており、協力関係ができています。	何か疑問などあれば、その都度電話で聞いている。直接担当課に出掛ける事もある。制度改正などについて尋ねて、アドバイスをもらうなどして常に市との連携が取られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設け、職員全体で身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。玄関の施錠も時間を決めており、感染症対策・防犯対策以外では施錠を行わないようにしている。	年に1回研修を行っている。職員からアンケートを取り、その都度自分を振り返っている。言葉使いには気を付けている。日々の記録にも丁寧語で書いている。日中は玄関の施錠はせず、利用者の行動を制止しないようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回は虐待防止についての内部研修を行い、外部研修にも参加するなど、学ぶ機会を作っている。また、年に1～2回自己チェックリストを行い、自身のケアを見直す機会を設けている。必要時には面談を行い、虐待が未然に防げるよう対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護研修に参加しており、朝礼や会議で職員にも研修内容を共有し、学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には項目ごとに説明を行い不明な点がないか確認し、ご理解・ご納得を得たうえで改定等行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には年に1回は運営推進会議に参加していただけるよう働きかけを行っている。会議では利用者様・ご家族様の意見や要望を伺い、職員で共有している。大切な話は個別・対面で行うようにしており、より多くの意見を出しやすい環境作りにも努めている。	電話や面会時に要望などを聞いている。推進会議に本人や家族が出席しており、普段の様子を知らせている。こまめに家族とは連絡を取っており、信頼関係が築かれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議では、運営や使用者様に支援について話し合いを行っている。また、気づきノートを活用し、匿名で意見が出せるよう提案する機会を増やしている。職員面談も定期的に行い、困りごとや悩みなど直接聞く機会を設けている。	個々に話を聞いている。職員から話してくることもあり話しやすい雰囲気である。1時間の休憩や有給休暇も取れており、職員にとって働きやすい職場となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修費用や資格取得費は事業所で負担し、職員のスキルアップや向上心を持ち業務に取り組めるようにしている。また、職員の生活環境に応じ労働時間や休日など設定しており、働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任職員は入社した日から研修を行っている。職員は内部研修だけでなく、個人に応じた内容の研修へ参加できるよう、外部研修の年間予定を立てるなど、研修を受ける機会が確保できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の研修や勉強会に参加したり、他施設に見学に行き意見交換を行うなど、交流する機会を作っている。職員にもその内容を伝え、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時には必ずご本人様と面談を行い、可能な方には施設見学もしていただいている。困りごとやご要望、入所に対しての不安などお聞きし、入所後も安心して過ごしていただけるよう、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家庭での過ごし方、困りごと、不安な事などをお伺いしている。そのうえで安心して施設で過ごしていただけるよう要望などを話し合い、信頼関係作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族と必ず面談を行い、ご本人様の状態やご家族の状況を把握し、必要としている支援の見極めを行っている。必要時には他のサービスや他施設の説明や見学もお勧めしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	おひとりお一人の能力に応じ、できる事を職員と一緒にいていただいている。様々な場面利用者様から教えていただく事を大切にしており、共に支えあう関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃よりご家族に生活の様子を伝えている。短時間面会や、ご家族と一緒に散髪や外泊、一時帰宅を行うなど協力していただき、ともにご本人を支えていく関係性を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室や親族との旅行に行っていたり、遠方でなかなか会えない知人の方とは電話で話していただくなど、これまでの関係性が継続できるように努めている。	行きつけの美容室に家族と一緒に出掛けている。一泊旅行や自宅への外泊などが可能である。市内までドライブに出掛けた時は、懐かしい街の様子を説明してくれるなど馴染みが途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方と一緒に過ごしていただけるようユニットの席を配置して、必要時には席替えも行っている。別ユニットの利用者様とも関わりあいが持てるように、ユニット間の移動も日常的に行っている。また、レクレーションやお手伝い、外出などを通じ、利用者間で協力できる環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も電話で相談を受けたり、他施設に転居された方のご様子を事業所に伺うなど関係性を大切にしている。必要時には支援も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時にはこれまでの生活状況や、入所されてからの希望や意向をお伺いしている。食事の嗜好を反映させたり、飲酒や喫煙なども安全配慮しながら楽しめるように工夫をしている。意向を伝える事が困難な方にはご家族にこれまでの生活をお聞きするなど、その方らしい暮らしができるよう努めている。	日々の会話の中で思いを感じ取っている。や本人や家族から情報を聞き取り、何をしたいかなどを把握して個々のリハビリをプランに組み込んでいる。もっとやることはないかと常に反省している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にはご本人・ご家族と面談、アセスメントを行っている。他事業所のサービスを利用している場合には事業所での様子を見学に行ったり、情報の共有を行うなど経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や申し送りで生活の把握を行い、全体会議でもその方に応じた支援の内容・方法を共有している。訪問看護とも情報共有を行い、チーム全体で現状の把握ができるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りや会議で話し合いを行い、課題の抽出やケアの統一を図っている。また、ご本人・ご家族の意見や思いも反映し介護計画を作成している。定期的にモニタリングを行い適切な支援ができていないか見直しも行っている。	月1回の会議で話し合い、職員みんなの意見を聞いている。本人や家族の希望も聞き、プランに反映している。2か月に1度モニタリングを行い、状態が変わればその都度プランの見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を個別化し、日常の様子やケアの実践・結果を記入している。記録は職員が閲覧できるようにしており、申し送りや会議で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お一人おひとりの望む生活が送っていただけるよう、希望された場所に職員やご家族と一緒に外出していただいている。急な買い物などご本人が希望された場合にはその日に行くなど、柔軟な対応ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の清掃活動には利用者様にも参加していただき、何かある時には声をかけていただくなど、地域の方と一緒に利用者様を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけであった病院や、ご本人やご家族が希望される病院を受診している。訪問看護とも情報共有を行い、必要時には受診日以外にも受診を行うなど、その方にあった適切な医療が受けれるよう支援している。	かかりつけ医を選ぶことが出来る。24時間対応してくれる強力医に変える利用者が多い。受診は職員が対応しているが家族も必要時同行してくれる。週1回訪問看護を利用しており、状態の変化に早く気づく事が出来る。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関と医療連携を図り、週に1回の看護師訪問時には利用者様の様子をお伝えし、相談や助言をいただいている。24時間連絡体制も整っており、いつでも適切な受診や看護が受けれるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入所中の様子など医療機関と情報共有を行い、入院中にも情報交換を行い必要時には面会に行くなど、早期退院に向けた話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化や終末期についての説明を行い意向をお伺いしている。重度化した場合には再度説明を行い方針の決定をしている。週末期においても利用者様やご家族との時間が持てるように工夫し、事業所全体でその方を支えていけるよう支援している。	入居時に重度化した場合の施設の方針を説明し希望を聞いている。重度化したらその都度話し合いを行い、希望を取り直している。医療行為を伴わない看取りを経験しており、終末期の対応を職員に徹底している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成しており、必要時には利用者個人の緊急対応マニュアルの作成もしている。職員会議でマニュアルの確認を行い、職員研修も定期的開催するなど、速やかな対応ができるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っており、年に1回は消防署立ち合いのもと水消火器の使用訓練も実施し、地域の方も参加できるよう呼びかけをしている。施設が避難場所として利用できるよう、発電機や寝具類、食料品の備蓄も行っている。	年に2回避難訓練を行っている。通報訓練も実施している。地震火災を想定して、利用者と一緒に玄関へ避難している。米や缶詰、飲料など備蓄がある。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様には丁寧語で声かけを行い、その方の人格を大切にしている。居室は個室となっており、訪室時にはご本人に必ず声かけを行うなど、プライバシーを損ねないよう支援している。また、利用者様の行動を制止するのではなく、どうしてそのような行動を取られるのかを考え、その方の世界観に寄り添うようにしている。	目線を合わせて丁寧な言葉で話しかけている。トイレ介助でもプライバシーに気を付けている。一人ひとりに応じた対応に心掛けている。人権やプライバシー保護についての研修が毎年行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中からその方の希望を伺い、食べたい物を献立に入れるなど工夫している。また、職員と1対1でゆっくり会話する時間を持っていたくなど、利用者様が思いを伝えやすい環境作りにも努めている。おやつ飲み物はメニュー表を作成し、自己決定の支援もしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間、入浴日や入浴時間を決めておらず、その方の生活リズムに合わせて過ごしていただいている。体操やレクリエーションもゆっくり過ごしたいと希望がある場合には無理に参加していただかないなど、お一人おひとりの希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様と一緒に買い物に行き、衣類や靴などご本人に選んでいただいている。入浴時には着替えも一緒に選んでいただき、散髪以外にもパーマやカラーをしていただくなど、その方にあった身だしなみやおしゃれができるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所時には利用者様の好物を伺い、誕生日にはその方のお好きな食べ物を提供している。食事作りは職員と利用者様と一緒に作り、お一人おひとりのできる事を役割として持っていたいでいる。男性利用者様も積極的にお手伝いして下さっている。	3食施設内で作られている。利用者もエプロンをかけ、一緒に台所に立ち手伝いをしている。誕生日には好きなものを1品付けて、みんなでお祝いしている。行事で居酒屋メニューがあり楽しみとなっている。ラーメンやうどんを外食することもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の記録に食事量や水分量を記載し、職員が把握できるようにしている。また、朝食にパン食を希望される方には毎日パンを提供したり、個人用の急須とお茶の葉を持たれている方もおり、食事量や水分量が確保できるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っていただき、ご自身で磨くのが困難な方に対しては職員が介助している。必要時には歯科受診を行い、口腔衛生に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、排泄パターンを把握している。入所時や退院時におむつを使用している方に対してはリハビリパンツに変更していただき、定期的にトイレの声かけを行う事で排泄感覚を取り戻していただくなど、自立に向けた支援も行っている。	時間を見てトイレへ誘導している。出来るだけ自分でトイレを使用するように支援している。オムツはなるべく使わずリハビリパンツ使用でトイレでの排泄を支援している。夜間はトイレへの声掛けをしたり、ベッド上でのパッド交換をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、午前と午後に全体での体操を行い、利用者様の状態に合わせた個別リハビリも行い運動する機会を持っていたい。朝礼時には利用者様の排便状況を報告し、必要な方には排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や入浴時間を設定しておらず、その方の希望に合わせて入浴していただいている。全体会議では入浴に応じられない方に対して、どうしても気持ちよく入浴していただけるのかを話し合い、入浴が楽しめるような声かけや工夫を行っている。	毎日いつでも入浴することが出来る。機械浴もあり状態に合わせて入浴方法を取っている。拒否する時は時間を変えたりして気持ちよく入浴できるように努めている。袖を浮かべる事もある。肌の弱い人用のシャンプーを用意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間を決めておらず、その方に合わせて休んでいただいている。眠れない方には飲み物を提供したりお話を伺い安心して気持ちよく休んでいただけるよう努めている。また、居室の電気の明るさもその方に合わせ、眠りやすい環境作りにも努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬変更の際は、朝礼や申し送りにて職員に周知徹底している。各利用者様の薬の説明書もファイリングしており、職員がいつでも確認できるようにしている。服薬方法もその方に合わせて検討するなど、お一人おひとりに合った支援内容になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所時にはその方の生活歴を伺い、その方に合った役割を持っていたい。日々の会話の中からも希望を伺い、外食や買い物に行くなどの支援も行っている。希望される方にはタバコやお酒などの嗜好品も提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや買い物など、その方の希望に合わせて外出できるようにしている。また、ご家族の協力のもと美容院や旅行、一時帰宅も行っている。お花見などの季節のイベントに合わせて外出できるようにも支援している。	お菓子や洋服を買いに出かけたり、隣の市まで買い物に行ったりしてドライブが気分転換にもなっている。道の駅や桜見物などにも出かけている。日々の散歩も野山を見ながら出会う近所の人と会話を楽しんでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額ではあるがご自身でお金の管理をされている方がおり、施設で管理している方に対しても一緒に買い物に行き希望される物を購入していただくなど、その方の希望や能力に合わせて金銭管理やお金が使ええる支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方に対しては施設の電話で知人やご家族とお話する機会を持っていたり、携帯電話を所持されている方もおり、いつでも電話やラインができるようにしている。また、ご家族には暑中見舞いや年賀状を送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は冷暖房完備しており、適切な温度調整ができるよう温度計を置いている。季節の飾りや壁面作成を行うなど、四季を感じていただけるように工夫しており、夜にかけて照明やテレビの音量を下げたり、職員の声のトーンも不快にならないよう心がけている。	玄関前にはテーブルとイスが置かれ、のんびりくつろげるようになっている。フロアや廊下に空気清浄機が置かれ、冷暖房完備で快適に過ごすことが出来ている。明るくアットホームな雰囲気である。利用者と一緒に作成した飾り物が壁に貼られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部分にソファを置き、気の合う利用者様と一緒に過ごしたり、お一人でも過ごせるようしている。また、玄関先にも椅子を設置しており、お一人おひとりが過ごしやすい環境作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた寝具や家具などを使用していただいている。居室にご家族との写真やアルバムを飾られたりお花を置かれるなど、心地よく過ごされるよう工夫をしている。	これまで使い慣れた小物や家族の写真、テレビやイスなどが持ち込まれている。普段着をハンガーにかけていたり、それぞれ個性のある部屋作りとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの扉には「トイレ」「便所」と表記しており、その方の「できること」「わかること」を活かし、自立した生活が送れるよう工夫している。必要な方には居室内にマットを引いたり手すりを設置するなど、安全面にも配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	4490500404		
法人名	栄寿会 合同会社		
事業所名	グループホーム ぽかぽか(さくらユニット)		
所在地	大分県佐伯市弥生大字江良1451-1		
自己評価作成日	令和7年5月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	令和7年6月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本年度は地域との交流を深める事に重点を置き、回覧板で日々の暮らしや施設での取り組みの様子をお伝えし、SNSでも利用者様やイベントの様子を発信するなど、地域に根ざした施設作りに取り組んできました。同時に、利用者本位とチームワークをより強固なものにするために、職員別の研修や利用者様の個別リハビリなどの新たな取り組みを行い、「その人らしさ」や「どのように生活をしていきたいか」を職員と利用者様が一緒に考える、お一人おひとりに寄り添ったケアの実践をしてきました。また、外部研修に参加する機会も多く作り人材育成に力を入れ、職員のスキル向上や資格取得にも注力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【グループホーム ぽかぽか ゆずユニットに記載】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は各ユニット・休憩室に掲示しており、毎朝朝礼時に理念を読み、管理者・職員共に共有している。新任職員研修には必ず理念に基づいた研修を行い、職員別にも定期的に研修を行う事で実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の集会や清掃活動など利用者様も一緒に参加していただき、地域の方との交流を深めている。また、日常的に散歩を行うなど、地域とのつながりが途絶えないよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、施設で行っている認知症ケアの事例や研修内容などお伝えし、地域の方々に認知症への理解を深めている。また、回覧版に事業所の便りを掲載し、日々の取り組みなども紹介している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、サービスの内容や取り組み等報告をしている。ご家族様や地域の意見をいただき職員全員で共有し、サービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所担当者様と積極的に話し合いをする機会を作っている。利用者様や制度の事など必要時にはアドバイスを受けており、協力関係ができています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設け、職員全体で身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。玄関の施錠も時間を決めており、感染症対策・防犯対策以外では施錠を行わないようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回は虐待防止についての内部研修を行い、外部研修にも参加するなど、学ぶ機会を作っている。また、年に1～2回自己チェックリストを行い、自身のケアを見直す機会を設けている。必要時には面談を行い、虐待が未然に防げるよう対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護研修に参加しており、朝礼や会議で職員にも研修内容を共有し、学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には項目ごとに説明を行い不明な点がないか確認し、ご理解・ご納得を得たうえで改定等行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には年に1回は運営推進会議に参加していただけるよう働きかけを行っている。会議では利用者様・ご家族様の意見や要望を伺い、職員で共有して。大切な話は個別・対面で行うようにしており、より多くの意見を出しやすい環境作りにも努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議では、運営や使用者様に支援について話し合いを行っている。また、気づきノートを活用し、匿名で意見が出せるよう提案する機会を増やしている。職員面談も定期的に行い、困りごとや悩みなど直接聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修費用や資格取得費は事業所で負担し、職員のスキルアップや向上心を持ち業務に取り組めるようにしている。また、職員の生活環境に応じ労働時間や休日など設定しており、働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任職員は入社した日から研修を行っている。職員は内部研修だけでなく、個人に応じた内容の研修へ参加できるよう、外部研修の年間予定を立てるなど、研修を受ける機会が確保できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の研修や勉強会に参加したり、他施設に見学に行き意見交換を行うなど、交流する機会を作っている。職員にもその内容を伝え、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時には必ずご本人様と面談を行い、可能な方には施設見学もしていただいている。困りごとやご要望、入所に対しての不安などお聞きし、入所後も安心して過ごしていただけるよう、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家庭での過ごし方、困りごと、不安な事などをお伺いしている。そのうえで安心して施設で過ごしていただけるよう要望などを話し合い、信頼関係作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族と必ず面談を行い、ご本人様の状態やご家族の状況を把握し、必要としている支援の見極めを行っている。必要時には他のサービスや他施設の説明や見学もお勧めしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	おひとりお一人の能力に応じ、できる事を職員と一緒にいただいている。様々な場面利用者様から教えていただく事を大切にしており、共に支えあう関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃よりご家族に生活の様子を伝えている。短時間面会や、ご家族と一緒に散髪や外泊、一時帰宅を行うなど協力していただき、ともにご本人を支えていく関係性を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室や親族との旅行に行ってもらったり、遠方でなかなか会えない知人の方とは電話で話していただくなど、これまでの関係性が継続できるように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方と一緒に過ごしていただけるようユニットの席を配置したり、必要時には席替えも行っている。別ユニットの利用者様とも関わりあいが持てるように、ユニット間の移動も日常的に行っている。また、レクレーションやお手伝い、外出などを通じ、利用者間で協力できる環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も電話で相談を受けたり、他施設に転居された方のご様子を事業所に伺うなど関係性を大切にしている。必要時には支援も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時にはこれまでの生活状況や、入所されてからの希望や意向をお伺いしている。食事の嗜好を反映させたり、飲酒や喫煙なども安全面配慮しながら楽しめるように工夫をしている。意向を伝える事が困難な方にはご家族にこれまでの生活をお聞きするなど、その方らしい暮らしができるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にはご本人・ご家族と面談、アセスメントを行っている。他事業所のサービスを利用している場合には事業所での様子を見学に行ったり、情報の共有を行うなど経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や申し送りで生活の把握を行い、全体会議でもその方に応じた支援の内容・方法を共有している。訪問看護とも情報共有を行い、チーム全体で現状の把握ができるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りや会議で話し合いを行い、課題の抽出やケアの統一を図っている。また、ご本人・ご家族の意見や思いも反映し介護計画を作成している。定期的にモニタリングを行い適切な支援ができているか見直しも行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を個別化し、日常の様子やケアの実践・結果を記入している。記録は職員が閲覧できるようにしており、申し送りや会議で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お一人おひとりの望む生活が送っていただけるよう、希望された場所に職員やご家族と一緒に外出していただいている。急な買い物などご本人が希望された場合にはその日に行くなど、柔軟な対応ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の清掃活動には利用者様にも参加していただき、何かある時には声をかけていただくなど、地域の方と一緒に利用者様を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけであった病院や、ご本人やご家族が希望される病院を受診している。訪問看護とも情報共有を行い、必要時には受診日以外にも受診を行うなど、その方にあった適切な医療が受けれるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関と医療連携を図り、週に1回の看護師訪問時には利用者様の様子をお伝えし、相談や助言をいただいている。24時間連絡体制も整っており、いつでも適切な受診や看護が受けれるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入所中の様子など医療機関と情報共有を行い、入院中にも情報交換を行い必要時には面会に行くなど、早期退院に向けた話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化や終末期についての説明を行い意向をお伺いしている。重度化した場合には再度説明を行い方針の決定をしている。週末期においても利用者様やご家族との時間が持てるように工夫し、事業所全体でその方を支えていけるよう支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成しており、必要時には利用者個人の緊急対応マニュアルの作成もしている。職員会議でマニュアルの確認を行い、職員研修も定期的開催するなど、速やかな対応ができるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っており、年に1回は消防署立ち合いのもと水消火器の使用訓練も実施し、地域の方も参加できるよう呼びかけをしている。施設が避難場所として利用できるよう、発電機や寝具類、食料品の備蓄も行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様には丁寧語で声かけを行い、その方の人格を大切にしている。居室は個室となっており、訪室時にはご本人に必ず声かけを行うなど、プライバシーを損ねないよう支援している。また、利用者様の行動を制止するのではなく、どうしてそのような行動を取られるのかを考え、その方の世界観に寄り添うようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中からその方の希望を伺い、食べたい物を献立に入れるなど工夫している。また、職員と1対1でゆっくり会話する時間を持っていたくなど、利用者様が思いを伝えやすい環境作りにも努めている。おやつ飲み物はメニュー表を作成し、自己決定の支援もしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間、入浴日や入浴時間を決めておらず、その方の生活リズムに合わせて過ごしていただいている。体操やレクリエーションもゆっくり過ごしたいと希望がある場合には無理に参加していただかないなど、お一人おひとりの希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様と一緒に買い物に行き、衣類や靴などご本人に選んでいただいている。入浴時には着替えも一緒に選んでいただき、散髪以外にもパーマやカラーをしていただくなど、その方にあった身だしなみやおしゃれができるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所時には利用者様の好物を伺い、誕生日にはその方のお好きな食べ物を提供している。食事作りは職員と利用者様と一緒にを行い、お一人おひとりのできる事を役割として持っていただいている。男性利用者様も積極的にお手伝いして下さっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の記録に食事量や水分量を記載し、職員が把握できるようにしている。また、朝食にパン食を希望される方には毎日パンを提供したり、個人用の急須とお茶の葉を持たれている方もおり、食事量や水分量が確保できるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っていただき、ご自身で磨くのが困難な方に対しては職員が介助している。必要時には歯科受診を行い、口腔衛生に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、排泄パターンを把握している。入所時や退院時におむつを使用している方に対してはリハビリパンツに変更していただき、定期的にトイレの声かけを行う事で排泄感覚を取り戻していただくなど、自立に向けた支援も行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、午前と午後に全体での体操を行い、利用者様の状態に合わせた個別リハビリも行い運動する機会を持っていたい。朝礼時には利用者様の排便状況を報告し、必要な方には排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や入浴時間を設定しておらず、その方の希望に合わせ入浴していただいている。全体会議では入浴に応じられない方に対して、どうしたら気持ちよく入浴していただけるのかを話し合い、入浴が楽しめるような声かけや工夫を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間を決めておらず、その方に合わせて休んでいただいている。眠れない方には飲み物を提供したりお話を伺い安心した気持ちで休んでいただけるよう努めている。また、居室の電気の明るさもその方に合わせ、眠りやすい環境作りにも努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬変更の際は、朝礼や申し送りにて職員に周知徹底している。各利用者様の薬の説明書もファイリングしており、職員がいつでも確認できるようにしている。服薬方法もその方に合わせて検討するなど、お一人おひとりに合った支援内容になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所時にはその方の生活歴を伺い、その方に合った役割を持っていたい。日々の会話の中からも希望を伺い、外食や買い物に行くなどの支援も行っている。希望される方にはタバコやお酒などの嗜好品も提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや買い物など、その方の希望に合わせて外出できるようにしている。また、ご家族の協力のもと美容院や旅行、一時帰宅も行っている。お花見などの季節のイベントに合わせて外出できるようにも支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額ではあるがご自身でお金の管理をされている方がおり、施設で管理している方に対しても一緒に買い物に行き希望される物を購入していただくなど、その方の希望や能力に合わせて金銭管理やお金が使える支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方に対しては施設の電話で知人やご家族とお話する機会を持っていたり、携帯電話を所持されている方もおり、いつでも電話やラインができるようにしている。また、ご家族には暑中見舞いや年賀状を送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は冷暖房完備しており、適切な温度調整ができるよう温度計を置いている。季節の飾りや壁画作成を行うなど、四季を感じていただけるように工夫しており、夜にかけて照明やテレビの音量を下げたり、職員の声のトーンも不快にならないよう心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部分にソファを置き、気の合う利用者様と一緒に過ごしたり、お一人でも過ごせるようしている。また、玄関先にも椅子を設置しており、お一人おひとりが過ごしやすい環境作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた寝具や家具などを使用していただいている。居室にご家族との写真やアルバムを飾られたりお花を置かれるなど、心地よく過ごされるよう工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの扉には「トイレ」「便所」と表記しており、その方の「できること」「わかること」を活かし、自立した生活が送れるよう工夫している。必要な方には居室内にマットを引いたり手すりを設置するなど、安全面にも配慮している。		